令和２年度　事業報告書

公益財団法人日本博物館協会

１　博物館の普及啓発に関する事業

（１）月刊誌「博物館研究」の発行

博物館関係者を主な対象に、博物館の振興に必要な情報を提供し、その普及を図ることを目的に、博物館の総合研究情報誌として、月刊誌「博物館研究」を発行している。内容は、博物館の取り組むべき特集テーマに関する論文・事例、調査研究成果、博物館に関する投稿論文、海外博物館情報、各博物館の所蔵品、全国博物館の展覧会、教育普及活動、国の文化・文化財・社会教育施設に関する施策等である。企画編集委員によるテーマ・執筆者の選定を行うとともに、掲載論文等の査読を行っている。

令和２年度の発行状況は次のとおりである。発行部数は、各号２，０００部、頁数は６０頁で会員館等には無料で配布し、会員館等以外の者には実費相当額の１冊１，２００円（消費税別）で配布した。（ただし、別冊は３，０００部発行した）

＜各号の特集のテーマ＞

４月号「平成３０年度博物館館園数関連統計」
別冊「ICOM 京都大会２０１９特集」
５月号「令和元年度新館紹介」
６月号「令和元年度研究協議会から」
７月号「スポーツと博物館」
８月号「自然災害と博物館」
９月号「博物館協会（博物館連絡協議会）の役割」
１０月号「博物館の新たな魅力発信（2）」」
１１月号「新型コロナウイルス感染症パンデミック下の博物館」
１２月号「ビジターセンターとしての博物館」
１月号「まず出来る、情報発信の工夫」
２月号「体感する博物館」
３月号「第 68 回全国博物館大会報告」

（２）第６８回全国博物館大会の開催

館種や設置者の異なる全国の博物館関係者が一堂に会し、博物館の直面する課題である博物館の地域社会とのかかわり、魅力的な展示や教育普及活動の在り方、効果的な広報や情報の受発信等に関する最近の調査研究の内容や各博物館での取組等について情報交換・意見交換・討議を行い、博物館の充実・振興を図ることを目的に、全国博物館大会を実施している。

第６８回全国博物館大会は、令和 2 年 11 月 25 日～26 日の 2 日間、横浜市開港記念会館を主会場、ニュースパーク（日本新聞博物館）を副会場として、全国から約 250 名の博物館関係者が参加して開催された。折から新型コロナウィルス感染症が日に日に勢いを増す中での大会となったが、感染症対策を万全に施し、入場者を定員の 50%に制限した。初めての試みとして大会の模様を後日 youtube で録画配信し、約 300 名の視聴を記録した。

主　催　　公益財団法人日本博物館協会
共　催　　神奈川県博物館協会
後　援　　文化庁、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会
協　賛　　株式会社乃村工藝社
　　株式会社丹青社
　　株式会社トータルメディア開発研究所
　　東京海上日動火災保険株式会社
協　力　　公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、ニュースパーク（日本新聞博物館）
会　期　　令和２年１１月２５日(水) ～１１月２６日（木）　２日間
会　場　　横浜市開港記念会館およびニュースパーク（日本新聞博物館）
参加者　　２５０名
大会テーマ　「変化の中の博物館 ―新たな役割と可能性―」
表　彰　　顕彰：７０名
　　永年勤続者　６９名、特別表彰　１名
　　棚橋賞：１名　　博物館活動奨励賞：２名
　　日本博物館協会賞（第１回）　　２館
基調講演　「新しい日常と博物館」
　　講師　東京大学名誉教授　　養老　孟司
全国博物館フォーラム　「博物館を取り巻く課題と展望」
　　講師　文化庁企画調整課長　　清水　幹治
　　講師　京都国立博物館長　　佐々木丞平
　　講師　日本博物館協会専務理事　　半田　昌之
決議起草委員会　第６８回全国博物館大会決議の検討
分科会１「コロナ禍の下での博物館の取組」
　　コーディネーター：
　　伊藤寿茂（新江ノ島水族館展示飼育部魚類チーム学芸員・飼育技師）
　　講師：髙尾戸美（多摩六都科学館研究・交流グループリーダー）
　　講師：三森典彰（(株) Biotop　Guild 代表取締役）
　　講師：森原明廣（山梨県立博物館学芸課長）
　　講師：橋本善八（世田谷美術館副館長・学芸部長）
分科会２「コロナ時代の新しい博物館像」
　　コーディネーター：
　　田 口 公 則（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸部主任学芸員）
　　講師：岡 村 幸 宣（原爆の図丸木美術館専務理事・学芸員）
　　講師：上 山 信 一（慶應義塾大学総合政策学部教授）
　　講師：逢坂恵理子（国立新美術館長）
　　講師：浜 田 弘 明（桜美林大学人文学系長・教授）
分科会３「身近に迫る危機への備え」

コーディネーター：
高 橋 典 子（シルク博物館副館長・学芸員）
講師：天 野 真 志（国立歴史民俗博物館特任准教授）
講師：佐 藤 美 子（川崎市市民ミュージアム学芸部門長）
講師：秋 山 純 子（東京文化財研究所保存科学研究センター保存環境研究室長）
講師：安 藤 里 恵（碧南市藤井達吉現代美術館学芸員）
講師：武田周一郎（神奈川県立歴史博物館学芸員）

展示会プレゼンテーション

シンポジウム「変化の中の博物館―新たな役割と可能性―」（分科会の総括）

司　会：半田昌之（日本博物館協会専務理事）

報告者：伊藤寿茂（新江ノ島水族館展示飼育部魚類チーム学芸員・飼育技師）

報告者：田口公則（神奈川県立生命の星・地球博物館学芸部主任学芸員）

報告者：高橋典子（シルク博物館副館長・学芸員）

全体会議　　第６８回全国博物館大会決議を決定した

第６８回全国博物館大会決議

私たちは、公益財団法人日本博物館協会主催のもと、神奈川県博物館協会の共催、ならびに文化庁、神奈川県 教育委員会、横浜市教育委員会の後援を得て、第 68 回全国博物館大会を、令和 2(2020)年 11 月 25 日・26 日の２日間にわたり、神奈川県横浜市で開催した。

コロナ禍の深刻な影響の下で参加者を大幅に制限せざるを得ない中、大会には全国から約 250 名が参加し、博 物館での新たな取組、今後の運営の在り方、防災・減災への対応等を中心に活発な議論が行われた。

私たちは、今般のコロナ禍のように社会が危機に瀕する中でも、博物館が、歴史文化・自然科学等多岐にわ たる文化遺産の保存継承・活用を核とする生涯学習の中核施設として、人々が健康で文化的な生活を送るため に必要な機能を有することを改めて確認した。しかし、博物館が持続的に多様な役割を果すためには、個々の 施設への支援や人材育成の促進等、早急に解決すべき多くの課題が残されていることを認識した。その上で、課題の解決に向けては、基本的機能の一層の充実に向けた各博物館の努力はもとより、厳しい運営環境の改善 や博物館制度の整備が不可欠であり、博物館の実情を各方面に強く訴える必要性を確認した。

ここに「変化の中の博物館 −新たな役割と可能性−」というテーマの下に開催された本大会の議論を実効あるものとするため、第 68 回全国博物館大会の名において下記のとおり決議する。

記

1　各博物館は、新型コロナウイルス感染予防の重要性を認識し、ガイドラインを基本に各施設の規模・特性を考慮し、引き続き感染予防対策を実施し、利用者・職員の安全確保を図りつつ博物館運営に取組む。また、博物館が社会基盤として果たし得る役割を自覚し、更なる相互の連携強 化を図り、それぞれの博物館が、利用者からの支持を得られる質の高い情報発信活動を持続的に 遂行するよう努力する。日本博物館協会は、コロナ禍での厳しい状況に置かれた博物館の運営実態を把握し、関係者と 共有し、博物館に対する支援政策の策定に資するとともに、現場の実情に添ったガイドラインの 改定等を行い、ウイズコロナからポストコロナへと向かう状況を見極めつつ国との連携を図り、 博物館の支援に取組み、博物館の公益性及び信頼性の確保に努める。

2　日本博物館協会は、博物館の持続的発展の基礎となる博物館制度の整備に向けて、現行博物館 法の見直しや新たな制度の在り方等について、これまでの調査研究・検討の成果を基に、各博物 館とともに、国を始めとする関係機関・団体等との連携の下に具体的検討を進める。検討に際し ては、今般のコロナ禍での経験・課題を踏まえ、運営形態が多様化する博物館の持続的発展に必 要な、公私立博物館に対する支援の拡充や、学芸員等必要な人材確保・育成等を図るとともに、 経費・人員の削減や合理化・効率化のみが優先されることなく、その目的・役割が確実に達成で きる経営基盤の強化を図るべく、関係機関等に理解を求める。 また、ポストコロナ時代に向けた博物館の発展に向けて、文化財・博物館資料等の保存、調査 研究環境の整備等、基本機能の充実とともに、多様な情報発信に不可欠な、デジタル化・ネット ワーク化の促進と、全国の博物館へ普及させる取組み等への支援を国等に強く働きかける。

3　各博物館は、今後の博物館活動の充実に国際的連携が不可欠であることを認識し、国際的視野 に基づく人材育成や相互連携を促進し、ICOM 京都大会で議論されたSDGs(持続可能な開発目標)を はじめとする博物館の社会的役割を果たすべく、各博物館の特色を活かした活動の充実に向けて 努力する。日本博物館協会は、各博物館の国際化への取組の推進を支援し、継続的に進展させるために、 国を始めとする関係機関・団体等に対し支援・協力を要請する。

4　各博物館は、地震や豪雨・火災等をはじめ、多発する大規模災害における博物館・文化財の被 害を防ぎ、被災した文化財や博物館の復旧・復興を支援するために連携を強化する。 日本博物館協会は、本年秋に発足した国立文化財機構文化財防災センターとの連携を核とし、 地域および全国的な文化財・博物館施設全体の防災体制の構築・強化に努めるとともに、新たに ICOM の国際委員会として誕生した博物館防災対策国際委員会等との連携の下に、国際的な防災体 制の強化に努める。

以上

（３）全国博物館長会議の開催

博物館運営の中核である館長を対象に、博物館の運営の在り方、経営基盤の強化、効果的な事業展開、地域のニーズ・地域に対する役割等の博物館をめぐる基本的問題について、館長の理解を深め、博物館の一層の普及を図るとともに、館長のリーダーシップに対する意識、能力の向上を目的に、全国博物館長会議を文部科学省と共催で開催している。

令和２年度も６月１７日（水）に江戸東京博物館大ホールにて開催するべく準備を進めていたが、４月７日（火）に７都府県にコロナ感染症防止対策として緊急事態宣言が発令されたことにより開催中止を決定した。

２　博物館に対する支援に関する事業

（１）博物館利用支援機器の支給

体の不自由な人、高齢者、子育て中の人等に対し、これらの人々の文化的、知的要求に応え、豊かな生活を支援し、もって博物館利用の促進を図るため、日本宝くじ協会の助成を得て博物館利用を支援する機器の支給を行っている。

令和２年度は、ベビーカー９１台、車いす９８台を支給した。

令和２年度の支給先博物館は、次のとおりである。

（ベビーカー寄贈先博物館一覧）　　配布台数　９１台

旭川市博物館、美幌博物館、平取町立二風谷アイヌ文化博物館、八戸市博物館、岩手県立博物館、牛の博物館、北上市立博物館、久慈琥珀博物館、盛岡市子ども科学館、東北歴史博物館、秋田県立近代美術館、秋田市立千秋美術館、白瀬南極探検隊記念館、上山市立上山城、福島県立博物館、福島市古関裕而記念館、諸橋近代美術館、茨城県立歴史館、大川美術館、群馬県立館林美術館、埼玉県立川の博物館、木更津市郷土博物館　金のすず、国立歴史民俗博物館、佐倉市立美術館、袖ケ浦市郷土博物館、千葉県立中央博物館、板橋区立美術館、印刷博物館、科学技術館、国立科学博物館、国立新美術館、八王子市郷土資料館、目黒区めぐろ歴史資料館、山種美術館、写真・絵手紙体験学習館、ＭＯＡ美術館、静岡市美術館、東海大学海洋学部博物館、あま市七宝焼アートヴィレッジ七宝焼ふれあい伝承館 、刈谷市美術館、刈谷市歴史博物館、トヨタ産業技術記念館、日本モンキーセンター、岐阜県現代陶芸美術館、岐阜県博物館、下呂温泉合掌村、横浜みなと博物館、小林古径記念美術館、新潟県立歴史博物館、南砺市立福光美術館、若狭三方縄文博物館、浅間縄文ミュージアム、市立大町山岳博物館、長野市立博物館、野尻湖ナウマンゾウ博物館、ＭＩＨＯ　ＭＵＳＥＵＭ、京都国立近代美術館、京都市動物園、大阪市立自然史博物館、大阪歴史博物館、神戸市立森林植物園、神戸市立須磨海浜水族園、姫路市立水族館、橿原市昆虫館、奈良県立美術館、奈良県立万葉文化館、県立童謡館・鳥取世界おもちゃ館（わらべ館）、鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館、出雲市立平田本陣記念館、出雲文化伝承館、出雲弥生の森博物館、和鋼博物館、林原美術館、広島県立歴史博物館（ふくやま草戸千軒ミュージアム）、大塚国際美術館、徳島県立近代美術館、高松市美術館、高松市歴史資料館、松山市坂の上の雲ミュージアム、高知みらい科学館、九州国立博物館、久留米市美術館、佐賀県立佐賀城本

丸歴史館、武雄市図書館・歴史資料館、大分市美術館、都城島津邸、都城歴史資料館、宮崎県総合博物館、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、鹿児島市立ふるさと考古歴史館、名護博物館

（９１館）

（車いす寄贈先博物館一覧）　　配布台数　９８台

三内丸山遺跡センター、石巻文化センター、奥松島縄文村歴史資料館、スリーエム仙台市科学館、齋藤茂吉記念館、茨城県近代美術館、土浦市立博物館、栗田美術館、高崎市観音塚考古資料館、館林市立資料館、朝霞市博物館、入間市博物館（ＡＬＩＴ）、行田市郷土博物館、伊能忠敬記念館、上野の森美術館、大田区立龍子記念館、五島美術館、静嘉堂文庫美術館、世田谷美術館、SOMPO 美術館、帝京大学総合博物館、東京国立近代美術館、東京都恩賜上野動物園、南アルプス市立美術館、山梨県立文学館、伊豆シャボテン動物公園、島田市博物館、下田海中水族館、富士市立博物館（富士山かぐや姫ミュージアム）、ベルナール・ビュフェ美術館、三嶋大社宝物館、岡崎市美術博物館（マインドスケープ・ミュージアム）、昭和美術館、名古屋港水族館、名古屋市博物館、名古屋刀剣博物館名古屋刀剣ワールド、博物館明治村、半田市立博物館、中津川市鉱物博物館、瑞浪市化石博物館、瑞浪市陶磁資料館、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県立歴史博物館、川崎市立日本民家園、相模原市立博物館、鶴岡八幡宮宝物殿、横須賀美術館、十日町市博物館、ドナルド・キーン・センター柏崎、ミティラー美術館、射水市新湊博物館、富山県教育記念館、富山県交通公園交通安全博物館、富山県美術館、安曇野市豊科近代美術館、上田市立博物館、駒ヶ根市立博物館、斎宮歴史博物館、三重県立美術館、四日市市立博物館、滋賀県立安土城考古博物館、滋賀県立近代美術館、滋賀県立琵琶湖博物館、京都鉄道博物館、博物館さがの人形の家、大阪音楽大学音楽メディアセンター 楽器資料館、大阪城天守閣、大阪市立科学館、大石神社義士史料館、たつの市立龍野歴史文化資料館、姫路市立美術館、兵庫陶芸美術館、水平社博物館、奈良県立民俗博物館、アドベンチャーワールド、鳥取県立博物館、今岡美術館、岡山県立美術館、備前長船刀剣博物館、呉市立美術館、下関市立東行記念館、下関市立美術館、毛利博物館、山口県立美術館、琴平海洋博物館（海の科学館）、丸亀市立資料館、愛媛県歴史文化博物館、八幡浜市民ギャラリー・郷土資料室、高知市立自由民権記念館、海の中道海洋生態科学館　（マリンワールド海の中道）、北九州市立自然史・歴史博物館（いのちのたび博物館）、北九州市立美術館、筑紫野市歴史博物館（ふるさと館ちくしの）、福岡市美術館、佐賀県立九州陶磁文化館、長崎県美術館、南阿蘇ルナ天文台、出水市ツル博物館クレインパークいずみ

（９８館）

２）博物館総合保険

博物館利用者の安全の確保と博物館の財政的軽減を図るため、博物館総合保険に関するとりまとめ事務を行った。

令和２年度博物館来館者傷害保険及び施設賠償責任保険の加入館は、１６９館であった。

＜令和２年度の支給状況＞

Ⅰ　賠償責任保険制度（施設賠償責任保険）：　１件

Ⅱ　見舞金制度（ﾚｼﾞｬｰ･ｻｰﾋﾞｽ施設費用保険）：８件

No.	事故内容	被保険者	賠責/見舞金
1	被保険者の所有する長机の脚が折れたことにより、相手方が長机に置いていた顕微鏡とカメラが落下し破損。	出展者	賠責
2	展示室の遊びのテーブルで、テーブルを囲む椅子の上に外を向いて立ち、靴を履こうとした際、お尻から後ろに倒れ、テーブル支柱に頭部をぶつけ切傷。	女性 (3 歳)	見舞金
3	エントランスから特別展室への階段を降りる際に転倒、ステップに口をぶつけ下前歯が折れた。	女性 (6 歳)	見舞金
4	展示室で自動車の部品展示物を触った際に部品が外れて落下し左手薬指を切る。	男性 (2 歳)	見舞金
5	館の入口階段を下りる際、躓き転倒。前頭部を打ち救急搬送。	女性 (87 歳)	見舞金
6	館の入口階段を下りる際、躓き転倒。前頭部を打ち救急搬送。	―	見舞金
7	演奏会を聴きに来た際、1 階ロビーからホワイエへ繋がる階段を踏み外し、８段程転がり落ちた。左鎖骨骨折。	女性 (68 歳)	見舞金
8	藍染講座の片づけの最中、雨除けのブルーシートを外そうとして足を滑らせ左足すねを打撲。	女性	見舞金
9	パンフレットを見ながら階段を降りた際、途中で足を滑らせ踊り場に落下。1 日入院、翌日通院。	女性 (54 歳)	見舞金

3　博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

（1）博物館登録制度の在り方に関する調査研究

令和元年 11 月に文化庁が設置した文化審議会博物館部会、および同部会の下に今年 2 月に設置された「法制度のあり方に関するワーキンググループ」への参画を中心に、今後の博物館制度のあり方、博物館法改正の方向性について、引き続き調査研究を行った。年度内に同テーマで研究協議会を開催することはコロナ禍の影響で見送りとなったが、日本学術会議と全日本博物館学会等が主催して 3 月 2 日に開催したシンポジウム「今後の博物館制度を考える 博物館法改正を見据えて」の開催に協力し議論を深めることができた。合わせて、多様な館種の意見を集約するために、各館種別団体に連絡を取りながら、今後の制度の検討に際しての連携体制の強化を図りつつある。

また、ICOM 規定における博物館定義の見直しに関する取組として、3 月 27 日に「ICOM 博物館定義に関するフォーラム」（オンライン）を開催し、新たな定義に反映させるべきキーワードの検討を行い、日本委員会としてまとめた 20 のキーワードを本部に提出した。

（2）博物館総合調査の実施

概ね 5 年を目途に、日本の博物館の実態を把握するため、昭和 49 年以降実施してきた「博物館総合調査」については、昨年度から現役学芸員を中心とした委員による委員会を開催し調査内容を検討。10 月上旬に調査票を発送し、一か月ほどで回収。回収率は 55.4%であった。その後令和 2 年 2 月、質問項目別に執筆担当を決定。また、館種別の担当各 1～2 名を決めて分担して執筆を開始した。しかしながら折しも新型コロナウィルスが発生して各位、それぞれ博物館の感染症対応で多忙を極めていたが、各位のご努力により、11 月上旬に上梓。関係方面に配布するとともに、博物館法改正に向けて、文化庁の文化審議会の博物館部会もスタートした。

（3）出版物等による情報の提供

博物館関係者に対し、博物館運営や活動に関する新たな企画・立案や他の博物館等との連携事業の推進を図るため、博物館にかかわる調査研究成果や博物館に関する法令・基準、博物館専門職員名簿等の博物館運営や活動に関する基礎的な資料及び情報を提供する事業を行っている。

令和２年度の出版物等による情報の提供等は次のとおりである。

・「全国博物館総覧」の編集
・「令和２年度版全国博物館園職員録」の作成・領布
・「博物館関係法令集」（改定版）、追補版の作成・領布
・既出版図書・「博物館研究」バックナンバーの頒布

4　博物館関係者に対する資質向上に関する事業

（1）研究協議会等

博物館において、購入資料の選定、資料の整理・保存、調査研究、展示、教育普及活動等の諸事業を企画・実施しているのは学芸員等であり、博物館活動の充実を図る上で、優れた学芸員等の専門家を育成し確保することは極めて重要である。このため、博物館の学芸員等が専門的諸課題やその改善の方策等についてお互いの実践経験や知識を基に研究協議を行い、更にその資質を向上させることを目的に研究協議会を行っている。研究協議会は、原則として、テーマを定めて２日間にわたり全国２～３か所において行うこととしているが、令和２年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、実施できなかった。

（2）美術品梱包輸送技能取得士認定試験

博物館や美術館の美術品の取扱い、特に梱包や輸送については、指導的立場にあった高い技能と知識を有する者が、定年等により退職され、必要な技能や知識の継承が困難になっている。

他方、国・公立博物館をはじめとして広く競争入札の導入に伴い美術品の梱包・輸送に関し、知識や経験のない業者が落札し、貴重な美術品が毀損されるような事態になることが懸念されるようになった。このような事態を防止するとともに、後継者を養成し、美術品取扱いの知識や技能の維持・向上を図るため、当協会は、平成２０年度に「美術品取扱い技術等にかかわる委員会」

を設置し、検討に着手した。その結果を踏まえ「美術品梱包・輸送技能」に関する資格制度（１級・２級・３級）を創設し、平成２３年度に３級試験の試行、平成２４年度に３級試験の本格実施及び２級試験の試行、平成２５年度には３級・２級試験の本格実施及び１級試験の試行、平成２６年度からは３級・２級・１級試験を本格実施している。

受験希望者の増加に伴い、平成２８年度から３級試験の実施日を増やし、１級受験日を８月に変更した。平成２９年度はこれに加えて、再受験者について２級では面接試験合格者の面接免除、３級では筆記試験合格者の筆記免除の制度を設けるとともに、２級試験の受験希望者の増加に対応して、２日目に２級の面接免除者の試験を実施した。平成３０年度には２級受験につき、面接免除者は１日目・２日目いずれでも受験可能とし、定員を増やした。

平成２９年度より合格者には合格認定証に加え、携帯用認定証を発行している。

なお、当認定試験の参考とするため、「博物館資料取扱いガイドブック―文化財、美術品等梱包・輸送の手引き―」を編集し、株式会社ぎょうせいから出版している。平成２８年度にはその改訂版を出版した。

平成３０年度には当協会ホームページにて２級および３級の実技試験の合否判定用のチェックシートならびに３級実技講習用ビデオを公開した。令和元年度には３級実技講習用ビデオを更新し、より実際の試験に即したものとして公開した。

令和２年度については、1 級試験は 8 月の時点では万全な感染防止対策が準備できず、時期をずらして 12 月に密を避けるために、黒田セミナー室と黒田会議室ではなく、より広い空間を確保すべく東京国立博物館平成館で実施した。2 級および 3 級の実技試験においては、陶器実技で補助者を使う際の受験者と補助者の密接した距離が問題となり、陶器実技は行わないこととした。

3 級については、従前より陶器実技と軸装実技の 2 班に分かれての試験をしていたため、令和 2 年度については全員が軸装実技を受験することで試験を実施できたが、2 級については陶器実技に代わる別の選択肢がなく、試験そのものが中止となった。また、試験を実施した 3 級についても、絵画額装梱包の試験場の密状態を解消するために、受験者数を半減した。

＜３級認定試験＞

試験日　　令和３年２月１３日(土)および２月１４日(日)
試験時間　１０時００分から１５時００分
試験場所　東京国立博物館　平成館（小講堂、第１会議室～第４会議室）
受験者　　５６名　　合格者　３５名　　不合格者　２１名
試験科目　実技試験（額装および掛物）、筆記試験　（筆記免除　１１名）

＜２級認定試験＞

中止

＜１級認定試験＞

試験日　　令和２年１２月１３日(日)
試験時間　１０時００分から１７時３０分
試験場所　東京国立博物館平成館　会議室
受験者　　１０名　　合格者　５名　　不合格者　５名
試験科目　筆記試験、口頭試問

（３）顕彰事業

１）博物館功労者表彰

博物館功労者顕彰規程第２条に基づき、博物館活動に貢献のあった博物館関係者に対し顕彰を行っている。（同条第１号：日本博物館協会又は博物館に２０年以上にわたり永年勤続し、他の模範となる者、第２号：協会又は博物館の事業に対し、顕著な功績のあった者、第３号：協会又は博物館の防火、防災等に挺身し、功労のあった者、第４号：協会又は博物館に対し、多額の金品を寄附した者。）令和２年度は、第１号の該当者６９名、第２号の該当者１名に対し顕彰を行った。

２）棚橋賞、博物館活動奨励賞

我が国における博物館学研究の先駆者である故棚橋源太郎氏の功績を記念し、月刊誌「博物館研究」の優秀論文の著者に対し「棚橋賞」を、優れた実践報告に「博物館活動奨励賞」を贈呈しており、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考委員会での審議の結果、令和２年度の棚橋賞、博物館活動奨励賞および博物館特別活動奨励賞の受賞者は次のとおりであった。

棚橋賞

受 賞 者：石垣 悟 氏（東京家政学院大学現代生活学部准教授）

受賞論考：「災害から考える有形の民俗文化財と地域博物館」

博物館活動奨励賞

受 賞 者：冨樫 和孝 氏（北杜市オオムラサキセンター環境等事業責任者）

受賞論考：「地域に根差した昆虫館活動の現在―国蝶オオムラサキが棲む里山の昆虫館から」

受 賞 者：高橋満（福島県立博物館専門学芸員）

受賞論考：「博物館における震災の継承―震災遺産保全のケーススステディ」

顕彰等は、令和２年１１月２５日の第６８回全国博物館大会において表彰が行われた。

３）日本博物館協会賞協会賞

昨年度受賞が決定した第１回日本博物館協会賞（以下、協会賞）受賞館である北名古屋市歴史民俗資料館とちひろ美術館の 2 施設の授賞式を第 68 回全国博物館大会の開会式で行った。

第 2 回協会賞の選考委員会（委員長：栗原祐司理事、委員 7 名）をオンラインで令和３年２月１６日に行い、検討の結果、福井県年縞博物館が選ばれ、第２８回理事会で承認された。同館は令和４年９月にクロアチア・ドブロブニクで開催予定の「Best in Heritage」への日本からの参加施設として推薦される。

協会賞受賞館は受賞翌年の全国博物館長会議で館の活動内容につき発表することが決まり、第１回協会賞受賞の２館が令和３年度全国博物館長会議（令和３年６月１日開催）で発表することとなった。

５　博物館の国際交流に関する事業

（１）「国際博物館の日」に関する事業

ICOM（国際博物館会議）が提唱する「国際博物館の日」の事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、５月１８日の「国際博物館の日」を中心に、共通テーマである「平等を実現する場としての博物館：多様性と包括性 2020」に基づき、全国の１４１館/園で無料入館や記念行事など２３５件の記念行事が企画されたが、コロナ禍による臨時休館などのため、実施報告があったのは２０数件にとどまった。

５月１６日には、共通テーマに関し、林良博・国立科学博物館長と中村美亜・九州大学大学院芸術工学研究院准教授の基調講演のほか、パネルディスカッションで構成される記念シンポジジウムを実施した。当初は京都国立博物館で開催する予定であったが、YouTube での配信に変更し、８００回を超える視聴があった。

（２）国際化・情報発信力の強化

ICOM 日本委員会の公式ホームページを刷新するとともに、Facebook を立ち上げ、コロナ関連や ICOM が進める「博物館の定義」の見直しなどを含め、内外の博物館に関する最新の情報を日英２か国語で発信した。

（３）その他の国際交流事業

ICOM 京都大会１周年を記念し、京都大会で重要な課題として取り上げられた SDG s をテーマとして、門川大作・京都市長と青柳正規委員長の基調講演のほか、パネルディスカッションを実施した。YouTube で同時配信し、1,700 件を超える視聴があった。

また、コロナ禍により海外渡航が難しいなか、オンラインを通じた国際会議への参加機会が増大したほか、ICOM の国際委員会のひとつである博物館セキュリティ国際委員会（ICMS）に日本委員会が発足し、海外の講師の参加を得てオンラインでセミナーを開くなど、国際交流事業の多様化が進んだ。

Best in Heritage には、日本博物館協会賞受賞のちひろ美術館が選出されたが、現地（クロアチア）での会議・授賞式は開催中止となり、オンラインでの発表が行われてウェブサイトに紹介された。

６　その他の事業

（１）地区博物館活動への支援

各地区単位の博物館の会議に共催者として、専務理事等の派遣及び情報提供等の支援を行った。

（２）大規模災害関係支援事業の実施

１）文化遺産防災ネットワーク推進会議への参画

国立文化財機構による文化遺産防災ネットワーク推進会議の構成団体（幹事団体）として、同会議及び防災関連のシンポジウム等への出席等をとおして、博物館の防災に関する情報の共有に努めるとともに、全国博物館大会分科会等において関係者と討議・検討を行った。

２）大規模災害で被災した博物館・文化財への支援活動への参加及び支援金の募集

東日本大震災の復興支援とともに令和元年度 9 月～10 月にかけて襲来した台風 19 号による大規模水害に伴い発生した博物館関連の被害について、長野市立博物館・川崎市民ミュージアムからの要請により、長野市立博物館に対しては、引き続き近隣の方々によるボランティア活動に対して修復に係る手袋・マスク・エタノール等の消耗品の提供を行っている。また、川崎市民ミュージアムについては、都内の博物館の方々にご参加いただいている。

３）大津波プロジェクト事業への参加

平成２６年度から継続実施している、陸前高田市立博物館の復興、被災資料の修復を支援するための文化庁助成事業「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」について、岩手県立博物館を中核館として展開した。

令和２年度は、３月頃から新型コロナウィルス発生による緊急事態宣言等により、当初計画していた事業を大幅に縮小変更し、家政学院大学生活文化は博物館及び、大阪市立自然史博物館における特別展について、期間・規模を大幅に縮小して実施、支援ワークショップについても、岩手県内で、県立博物館と陸前高田市立博物館の経験者が集合して実施するなどで、当初の計画を大幅に変更して実施している。また、実行委員会は、東京・盛岡・陸前高田と離れているが、会議は一つを除いてすべてオンラインにより実施した。

４）新型コロナウイルス感染防止に関する対応

①緊急アンケート実施

博物館を対象に４月、９月、２月の３回新型コロナウイルス感染防止に関する緊急アンケートを実施し、緊急事態宣言による臨時休館で開館日数、入館者数、入館料収入等がどの程度減少したかなどを調査し、文化庁や国会議員に実情を訴えた。

②文化庁感染症対策事業受託

文化庁より令和２年度第１次補正予算「文化施設の感染症防止対策支援事業」運営業務を５月１８日に受託し、財団内に感染症対策支援室を設けて、博物館への補助金受給の窓口業務を行い、６４５館に７４９百万円が採択された。（受託期間令和３年３月３１日まで）

また、新たに令和２年度第３次補正予算で同事業の運営業務を再度３月２６日に受託し、博物館からの補助金受給申請の窓口業務を開始した。（受託期間令和４年３月３１日まで）

７　会議等

令和２年度は、次のように理事会及び評議員会等を開催した。

＜理事会＞

第２６回理事会

日時　　令和２年６月１０日（水）

開催方法　書面決議

議　題

１　令和元年度事業報告及び収支決算について　　（第１号議案）

２　参与の選任について　　（第２号議案）

３　第６８回全国博物館大会の開催について　　（第３号議案）

４　会員規程の改訂について　　（第４号議案）

５　定時評議員会招集及び提出議案について　　（第５号議案）

６　報告事項

①　新入会員・退会会員について

②　職務執行状況の報告について

③　文化庁委託事業について

④　博物館研究別冊「ICOM 京都大会 2019 特集」の発行について

第２７回理事会　（臨時）

半田昌之専務理事から、本協会定款第３６条に基づく理事の全員による書面による同意の意思表示を求める提案があり、令和２年９月１４日、下記の議題に関し書面により諮り、同９月２８日、全員から承認の回答を得た。

議題

１　令和２年度顕彰候補者の承認について

２　令和２年棚橋賞受賞者の承認について

３　令和２年博物館活動奨励賞受賞者の承認について

４　令和２年度（６月１日～９月１４日）新入会員・退会会員の報告について

第２８回理事会

日時　令和３年３月１０日（水）１４時００分～１６時００分

会議方式　ＺＯＯＭ会議（リモート参加者）＋　黒田記念館セミナー室（対面式参加者）

議題

１　令和３度事業計画及び収支予算案について　　（第１号議案）

２　理事・評議員・監事の改選について　　（第２号議案）

３　第２回日本博物館協会賞選考結果について　　（第３号議案）

４　第６９回全国博物館大会（北海道大会）開催について　　（第４号議案）
５　２０２１年国際博物館の日シンポジウム開催について　　（第５号議案）
６　令和３年度参与会新任参与の選任について　　（第６号議案）
７　報告事項
①　新入会員・退会会員について
②　職務執行状況報告について
③　博物館法改正の動きについて
④　令和元年度「日本の博物館総合調査報告書」の発刊について
⑤　「博物館研究」２０２１年度特集テーマについて
⑥　令和２年度文化庁受託事業「文化施設の感染症防止対策事業（補助金）」について
⑦　西宮市大谷記念美術館運営コンサルタント業務について
⑧　新型コロナウィルス感染症緊急アンケート調査結果について

＜評議員会＞

第９回評議員会

日時　　令和２年６月２４日（水）
開催方法　書面決議
議題
１　令和元年度事業報告及び収支決算について　　（第１号議案）
２　第６８回全国博物館大会の開催について　　（第２号議案）
３　会員規程の改訂について　　（第３号議案）
４　評議員の退任について　　（第４号議案）
５　報告事項
①　令和２年度事業計画及び収支予算について
②　文化庁委託事業について
③　博物館研究別冊「ICOM 京都大会２０１９特集」の発行について

＜委員会＞

日本博物館協会の運営を円滑に遂行するため、日本博物館協会支部長会（１回）、日本博物館協会参与会（１回）を設けているが、令和２年度はコロナ感染症対策として開催を中止した。

日本博物館協会の事業を実施するため、博物館研究企画編集委員会（１回）、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考員会（１回）、博物館功労者選考委員会（１回）、日本博物館協会賞選考委員会（１回）を開催した。（うち、棚橋賞・博物館活動奨励賞選考員会および日本博物館協会賞選考委員会はオンラインで実施した）